

施工の手順

2 下地の清掃

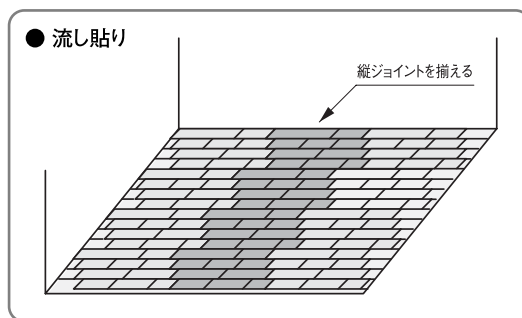
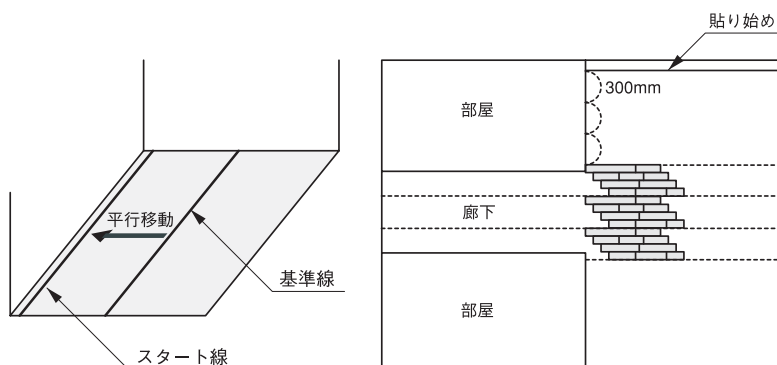
下地表面の付着物や突起は、金ペラ等でけずり平滑にした後良く清掃してください。
また、油が付着している場合も完全に取除いてください。

油・砂・ゴミ等は接着不良の原因になります。



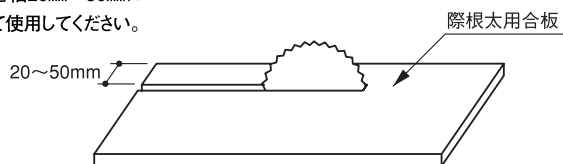
3 割付け・墨出し

- ①部屋の中央部に基準線を引きます。
- ②廊下部分などとの取り合いを考慮し、貼り始めの位置を決定し、基準線を平行移動してください。(廊下部分と目を通す場合は、廊下を基準にして貼り始めの基準線を決定すると割付けがうまくいきやすくなります。)
- ③床材を仮並べて、色柄のバランスをとります。
- ④縦のジョイントを同列に並べる流し貼りを基本とします。

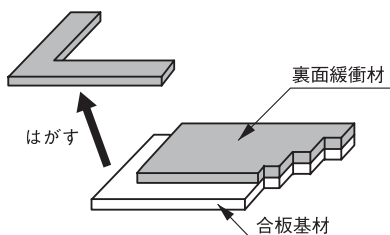


4 際根太の取付・際部の処理

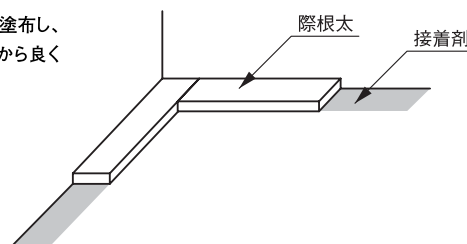
- ①際根太は、同梱の際根太用合板を幅20mm~50mmにカットして使用してください。



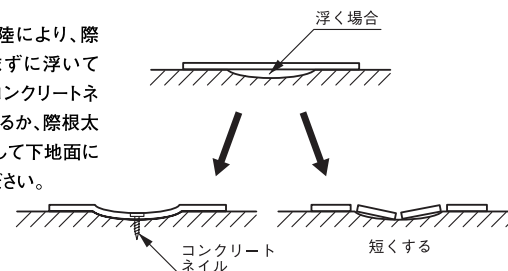
- ②際根太を設置する部分は、製品の裏面緩衝材を際根太より少し大きめの幅ではがしてください。



- ③下地面に接着剤を塗布し、際根太をおき、上から良く押さえませます。



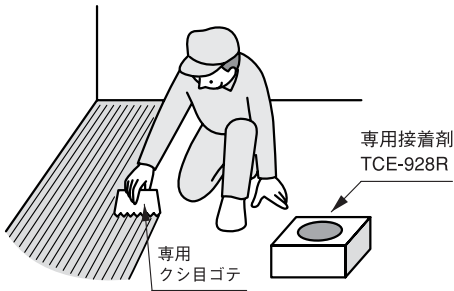
- ④下地面の不陸により、際根太がなじまずに浮いている場合はコンクリートネイルで固定するか、際根太の長さを短くして下地面になじませてください。



- 上り框・数居・ドア下枠等の突きつけ部については際根太と床材とを固定しますが、壁際の幅木の下部については際根太と床材とを固定しません。
- これは床暖使用時の収縮による隙間を部屋の周辺部で逃げるためですので、床材の長手方向の両端が突きつけになるような施工は絶対にやめてください。
- 壁際の幅木の下部については際根太を入れなくても構いませんが、壁際を歩いたときや、壁際に家具を置いたときに幅木の下に隙間が生じます。

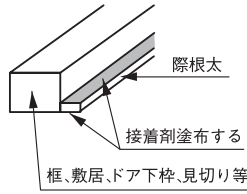
5 接着剤の塗布

- ①施工用接着剤TCE-928Rを専用クシ目ゴテを使用し下地面に塗布してください。
- ②一度にたくさん塗布せず、床材1列分ずつ塗布してください。



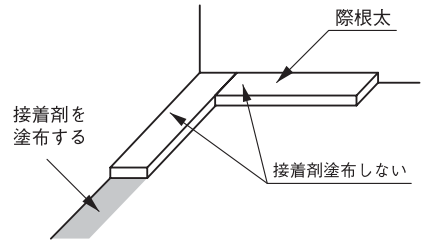
● 框・敷居、ドア下枠、見切り等の場合

上り框・敷居・ドア下枠等の突きつけ部分については際根太上にも接着剤を塗布してください。



● 壁際の幅木の下の場合

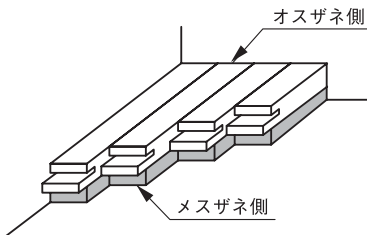
壁際の幅木の下部分については際根太上には接着剤を塗布しないでください。



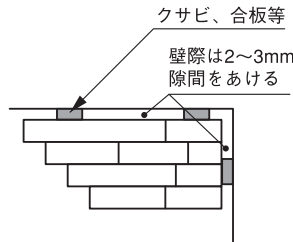
- 必ず指定の接着剤・クシ目ゴテを使用してください。(指定以外のものを使用すると床鳴りの発生や接着不良の原因となります。)
- 接着剤の説明書・注意事項をよくお読みの上ご使用ください。

6 貼り始め

- ①床材を切断し、オスザネが直接壁に接する場合はオスザネを切りおとし、壁に向かって右端よりメスザネ側を手前にして基準線にそろえて施工してください。



- ②床材の伸びを吸収するために、同梱のクサビや合板により壁際に2~3mmの隙間をあけてください。

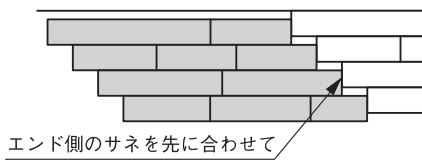


隙間をあけないと、床材が伸びたときに突き上げや床鳴りの原因となります。

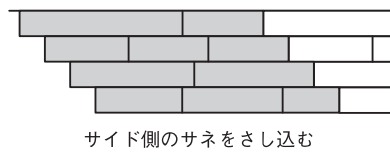
- ③下地の不陸などで床材が浮く場合は、重りをのせてなじませてください。
- ④接着施工のため接着剤が硬化するまでは動きませんので、基準となる1枚目は動かないようにしっかりと固定してください。

7 2枚目以降の施工

- ①1枚目のエンド部のメスザネに2枚目のオスザネをのせながらサネを合わせ、基準線に沿って貼ります。



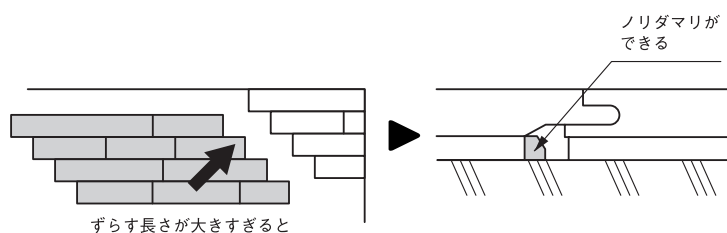
- ②以下順次、基準線に合わせてサネを差し込みながら貼り進めます。



接着剤がはみ出した場合は、乾いたウエスまたは溶剤をしみこませたウエスで拭き取ってください。硬化すると取れなくなります。(水は不可)

2枚目以降をはめ込む際は、床材を1枚目の近くにおいて、出来るだけずらさないようにしてサネを差し込んでください。サネを差し込む時に床材を接着剤上でずらすと、サネの下側にノリダマリができ、その部分だけ歩行感が硬くなります。

2枚目以降をはめ込む際は、きつくつめすぎないようにしてください。きつくつめすぎると床鳴りの原因となることがあります。



施工の手順

8 2列目以降の施工

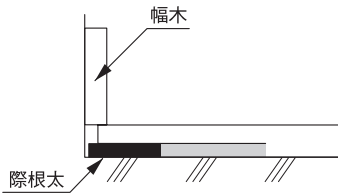
- ①2列目部分に接着剤を塗布します。
- ②1列目のメスザネにオスザネをはめ込みます。この際、壁際は隙間をあけるようにしてください。
- ③以下順次貼り進めます。

9 貼りじまい

- ①貼りじまいは、床材どうしに隙間が生じない程度に寄せて、合板またはクサビで隙間をあけてください。
- ②施工終了後、床表面を検査し、隙間がある場合は詰めて、接着剤がついている場合は速やかに拭き取ってください。接着剤が硬化すると、床材が動かず拭き取ることもできません。
- ③隙間確保のためのクサビや合板は1日後に取り外してください。

10 幅木取付

- ①幅木は、部屋の周辺部の隙間を隠すように施工してください。



11 養生

- ①施工後は傷や水漏れから床を守るため、床をきれいに清掃し、養生シートを養生テープで止めて十分に養生してください。この時、養生テープを直接床材表面に貼ることは避けてください。
- ②養生シートの上からペンキや雨水がかかるとシミになることがありますので注意してください。
- ③全ての内装工事、設備工事が終わり、脚立や道具等を持ち込まなくなってから養生シートをはずしてください。

施工後は、換気を充分にしてください。高温多湿の状態で締め切っていますと、床材の突き上げの原因になることがあります。